View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Tsukuba Repository

Study on determinants of interregional off-farm rural labor floating in China : case of Anhui Province

著者	王 文信
内容記述	"January 2007"--Cover Thesis (Ph. D. in Agricultural Science)--University of Tsukuba, (A), no. 4319, 2007.3.23 Includes bibliographical references (leaves 111-116)
発行年	2007
URL	http://hdl.handle.net/2241/91422

【179】

氏　名（国籍）	王（おう）　文信（ぶんしん）（中　国）
学位の種類	博　士（農　学）
学位記番号	博　甲　第　4319　号
学位授与年月日	平成 19 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	生命環境科学研究科
学位論文題目	**Study on Determinants of Interregional Off-Farm Rural Labor Floating in China：Case of Anhui Province** （中国における農村・都市間労働移動の決定要因分析：安徽省の事例）

主　査	筑波大学教授	Ph. D.（地域科学）	徳　永　澄　憲
副　査	筑波大学教授	農学博士	永　木　正　和
副　査	筑波大学助教授	博士（農学）	茂　野　隆　一
副　査	筑波大学助教授	博士（農学）	松　下　秀　介

論　文　の　内　容　の　要　旨

1980 年代中期から中国における農村労働力の流出が続いている。中国社会科学院と労働研究所の流動人口調査によれば，2005 年の中国農村出稼ぎ労働者は約 1 億 2,000 万人に達したが，2030 年にはさらに 3 億人にまで達すると予測している。中国における農村労働者の地域間流動就業は，計画経済から市場経済へ転換する過程における重要な経済問題である。そこで，本論文の目的は，中国における農村・都市間労働移動の現状を概観するとともに，労働移動，特に農村からの出稼ぎ労働がどのような経済的要因により行われているのかを実証的に分析することである。

中国の経済は，農村労働者の地域間移動により便益を受けている。世界銀行は，1978 年から 1995 年までに，中国の国内総生産（GDP）を 9.4％押し上げ，その増加率の 1％は農村労働力の農業から第二産業・第三産業への移動によると報告している。同様な調査結果が，世界教育・科学・文化組織（UNESCO）と中国社会科学院によってなされている。一方，出稼ぎ労働者及びその家族も農村労働者の地域間流動から便益を受けている。1983 年から 2005 年の間に，農民の収入は増加傾向を示している。特に，出稼ぎ収入の比率は高い。そこで，上記の研究目的を達成するために，中国統計局の農村調査チームの新しいデータと中国阜陽市の農家調査データを用いて，農村・都市間労働移動の現状分析と計量分析学的分析を行い，農村労働者の流動就業への影響因子について解析した。

まず第 2 章で，労働移動の先行文献のサーベイを行うとともに，中国における農村・都市間労働移動の現状を概観した。さらに，それを踏まえて第 3 章では，中国農村調査チームによる全国農村流動就業労働力調査データ（1997 年から 2000 年までの期間）等を利用して，重力－就業モデル（gravity-based and employment-based approaches）により，農民の流動就業の要因分析を行い，各要因の流動就業への影響を明らかにした。

しかし，中国では，地域間で労働移動比率と移動人数の違いが大きいので，第 4 章で，農村・都市間で大幅な労働移動が見られる安徽省の労働移動について実証分析を行った。1985-1990 年と 1995-2000 年の中国人口センサス・データなどを用い，被説明変数である労働移動を農村部の労働移動と都市部の労働移動とに

分けて，農村・都市間労働移動関数と都市・都市間労働移動関数を重力－就業モデル（gravity-based and employment-based approaches）により推定した。その推定結果から，1985-1990 年の期間においては，農村・都市間労働移動関数と都市・都市間労働移動関数とも，地域間の距離が重要な要因であること，1995-2000 年の期間では，両関数とも，地域間の距離とともに，流入先の１人当たりの所得と労働移動者の教育水準が重要な要因であることを明らかにした。

第５章では，人口密度が高く，農村人口率も高い安徽省阜陽市の農村を分析対象とし，農村労働者の就業状況について詳しい調査を行い，このミクロ調査データを用いて，ロジット・モデルにより農村労働者の就業決定要因を分析した。その推定結果から，農村から都市への出稼ぎ労働は，労働者の年齢，性別，熟練技術，および社会的ネットワーク要因によって規定されていることが実証された。最終章では，本論文の主要な結論を要約するとともに，今後の課題を述べた。

以上を要約すると，本論文は，改革開放政策が行われた後の中国おける農村労働者の農外就業（大部分は出稼ぎ労働者）の決定要因として，(1) 地域マクロデータを用いた重力－就業モデル分析では，地域間の距離，流入先の１人当たりの所得，および農村労働者の教育水準が重要であり，(2) 安徽省阜陽市の農村を分析対象としたミクロデータを用いたロジット・モデル分析では，労働者の年齢，性別，熟練技術の有無，および社会的ネットワークの有無が重要であることを明らかにした論文である。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は，中国における農村労働者の農外就業（大部分は出稼ぎ労働者）の決定要因を農村のパネルデータを用いて分析した極めて水準の高い論文である。特に，ミクロ調査データを用いたロジット・モデル分析の推定結果から，労働者の年齢，性別，熟練技術の有無，および社会的ネットワークの有無という社会経済的要因が重要であることを明らかにしたことは当該分野にとっては重要な貢献であるといえる。

本論文の理論性，そして実証分析の方法論に関して学術的意義は大きい。申請者の本論文に対する研究構想力，目的を達成するための仮説の設定，実証モデルとモデルの分析結果，および研究成果のオリジナリティは博士の学位を与えるに相応しい高い学術水準に達している。

よって，著者は博士（農学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。